

令和8年度 病害虫発生予察 注意報 第8号

令和8年8月18日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 シロイチモジヨトウ
- 2 対象作物 ネギ
- 3 対象地域 平坦地
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

(1) 8月14日に実施した巡回調査では、平均被害葉率が平年より高く、また、葉上において、シロイチモジヨトウの卵塊も多数確認された(図1)。

発生圃場率：50.0% (平年：69.6%、前年：62.5%)

平均被害葉率：11.6% (平年：6.8%、前年：3.8%)

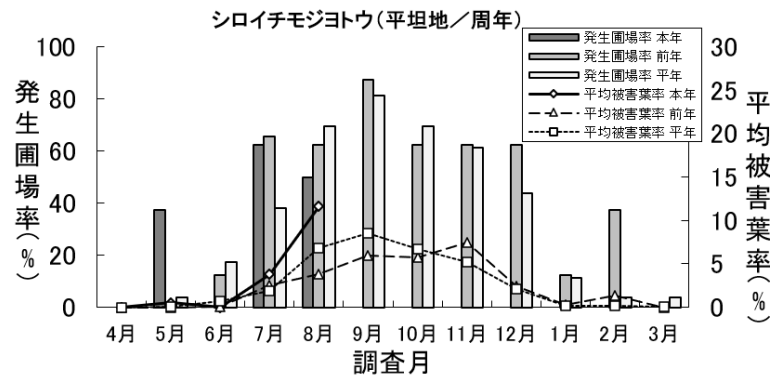


図1 病害虫発生予察巡回調査でのシロイチモジヨトウの発生状況(平坦地)

(2) 県北部地域に設置したフェロモントラップでは、平年より誘殺が多い状況が続いている(図2)。また、北部振興局で実施しているフェロモントラップ調査においても、7月末頃から発生が多い状況が続いている(表1)。

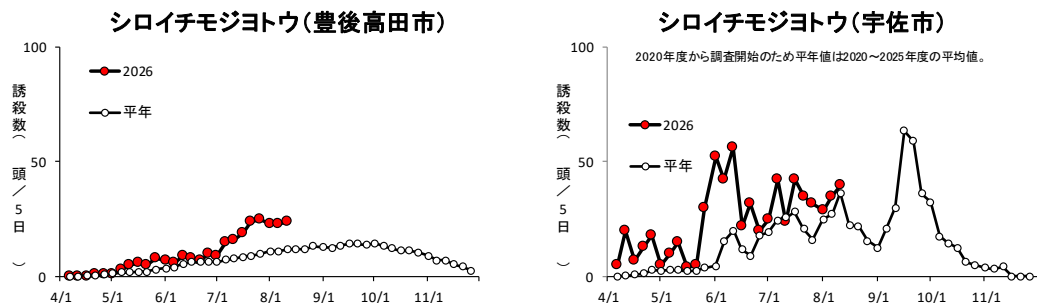


図2 県北部地域でのシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

表1 豊後高田市呉崎でのシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

誘殺数	1 工区	2 工区①	2 工区②	3 工区	旧干拓
7/22	38	120	40	98	53
7/29	95	309	191	85	356
8/5	197	548	204	71	523
8/12	68	173	518	155	308

- (3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長される傾向にあり、1 か月予報（8 月 13 日・福岡管区气象台発表）によると、平均気温は平年並 30%、高い確率 60%、降水量は少ない確率 50%、平年並 30%と、高温乾燥条件で推移することが予想されており、さらなる発生の助長が懸念される。

7 防除対策

- (1) 本虫は葉身内に侵入することで薬剤がかかりにくくなり、防除効果が著しく低下するため、圃場を定期的に確認し早期防除に努める。
- (2) 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守する。散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量（ラベル記載内容の範囲内）で丁寧に散布する。
- (3) 交信攪乱剤は殺虫剤と比較して抵抗性が発達しにくく被害抑制に効果的である。一方、近年の夏期高温により、残効期間が短くなる傾向にあることから、発生状況に応じて薬剤防除も併用しながら活用する。
- (4) 使用薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/yasai.html>



病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>